

○天草市地球温暖化防止実行計画 平成26年度実施の状況

1 温室効果ガス総排出量の比較

温室効果ガスの排出量は、基準年(平成18年度)と比較して32%増加しました。
燃料の使用量は基準年と比べておおむね減少していますが、二酸化炭素の排出量が多い火力発電所の稼働が増えたことが、温室効果ガス排出量が増加した主な原因です。

	排出量(kg-CO ₂)	削減率
基準年(平成18年度)排出量	4,123,925	
算定年(平成26年度)排出量	5,458,975	32%増加
目標(平成26年度)排出量	3,794,010	8%削減

2 電気・エネルギー使用量の比較

電気、重油の使用量はわずかに増加しましたが、重油を除く燃料の使用量については、基準年から削減することができました。特に、ガスやガソリン、軽油の使用量は、大幅に減少しています。

項目(単位)	基準年 (平成18年度)	算定年 (平成26年度)	増減	増減率
電気使用量(kWh)	7,294,634	7,407,812	113,178	2%
A重油使用量(ℓ)	121,576	129,700	8,124	7%
LPG使用量(m ³)	13,558	12,224	-1,334	-10%
都市ガス使用量(m ³)	94,308	68,990	-25,318	-27%
灯油使用量(ℓ)	6,741	6,157	-584	-9%
ガソリン使用量(ℓ)	189,753	111,373	-78,380	-41%
軽油使用量(ℓ)	17,929	7,746	-10,183	-57%

3 温室効果ガス総排出量増減の主な理由

【基準年と比較して増加した要因】

- ・電気事業者における火力発電の割合の増加による、電気使用に係る排出量の増加。

電気の使用に係る温室効果ガスの排出量は、九州電力で発電する際の温室効果ガス排出量に応じて計算されます。東日本大震災以降、温室効果ガスを多く排出する火力発電の割合が増加していることから、本市の温室効果ガス排出量が増加しました。
仮に、基準年における排出係数に置き換えて計算した場合、本市の温室効果ガス排出量は3,906,094kg-CO₂となり、基準年と比較しておよそ5%削減となります。

- ・昨年7月の豪雨の影響により、下水道の雨水処理における自家発電設備の稼働時間が増加したことに伴う重油の使用量の増加。

【基準年と比較して減少した要因】

- ・算定対象施設の廃止。
- ・節電・省エネルギーの取組みによる、燃料使用量の減少。
- ・高効率照明などの省エネ機器の導入による燃料使用量の減少。
- ・低燃費車の導入、公用自転車の活用、エコドライブの実践などによる公用車燃料使用量の減少。